

岩手県立高田病院 支援活動報告

派遣先：全国医学部長病院長会議 医療支援チーム（岩手県高田市 県立高田病院）

派遣期間：平成24年7月16日（月）～ 7月20日（金）

派遣人員：整形外科 助教 三村 朋大

去る 2012/7/16～7/20 の期間、岩手県立高田病院の医療支援活動のため、陸前高田市を訪れました。整形外科医として現地で外来を行って参りました。空路で岩手に入り、関西のうだる様な蒸し暑さとうって変わるある種のさわやかな気候の中、迎えの車で宿泊先の旅館に入りました。内陸部であったため全く地震や津波の影響はなく、震災のど真ん中に来たという感覚はこの時はまだありませんでした。翌日、移転された仮設の高田病院に車で向かいましたが、ある地点から窓からの景色が一変しました。「本当に、あの津波さえ来なければ・・・」という現地の方の声そのままの景色でした。津波が襲った場所だけ何もなくて、ただ草が覆い茂っています。もちろんコンクリートの基礎やそこそこの建物はかろうじて原型をとどめていますが、ほとんどの一般家屋は跡形もありませんでした。

外来業務を3日間行いましたが、現地の人々（医療 staff、患者さん）は、非常に元気で、明るく、物事に前向きであるというのが最初の印象でした。朝の朝礼では、いろいろな staff が話をするのですが、皆さん、笑いを取る様な会話やオチを必ず用意して話をされ、終始笑い声が絶えず和やかにいろいろな話が進んでいきます。患者さんも staff 同様に非常に明るく振舞われているように感じました。後日とある食事の席で、「整形外科は毎週毎週医者が変わるので、患者さんはかなり気を使っていると思いますよ」と常勤の内科 Dr に言われ、その時にハッとしました。「こちらの患者さん達は、みなさんいい人達ばかりですね！」なんて看護師さんに話しかけていた私は、なんと浅はかであったのか・・・。もちろんいろいろな Dr と接するのを楽しみにしている慢性疾患の方もおられたとは思いますが、累計 200 人以上の整形外科が現地入りをしている病院ですので、そのような心境になるのも無理はないと後から分かりました。そして、未だに整形外科の常勤医の目処はたっていないようです。整形外科医の立場からも、こういった病院に整形外科の常勤がいない事は、医療的観点からも経営的観点からも早急に改善が必要であると思います。

今回大学からの派遣という形で、医師として陸前高田市を訪れる事が出来き、非常に貴重な体験をさせて頂きました。皆様のご期待に添える医療支援が私に行えたかどうかは分かりませんが、現地の医療支援の一助となる事が出来ていたなら、幸甚に尽きます。また、今回の医療支援にかかわっておられた関係者の皆さんにこの紙面を借りて御礼を申し上げたいと思います。

現地の病院職員、地域全体、そしてなにより診察させて頂いた患者さん方に、ご多幸がある事を、遠い滋賀の地からではありますが、心からお祈りしております。

